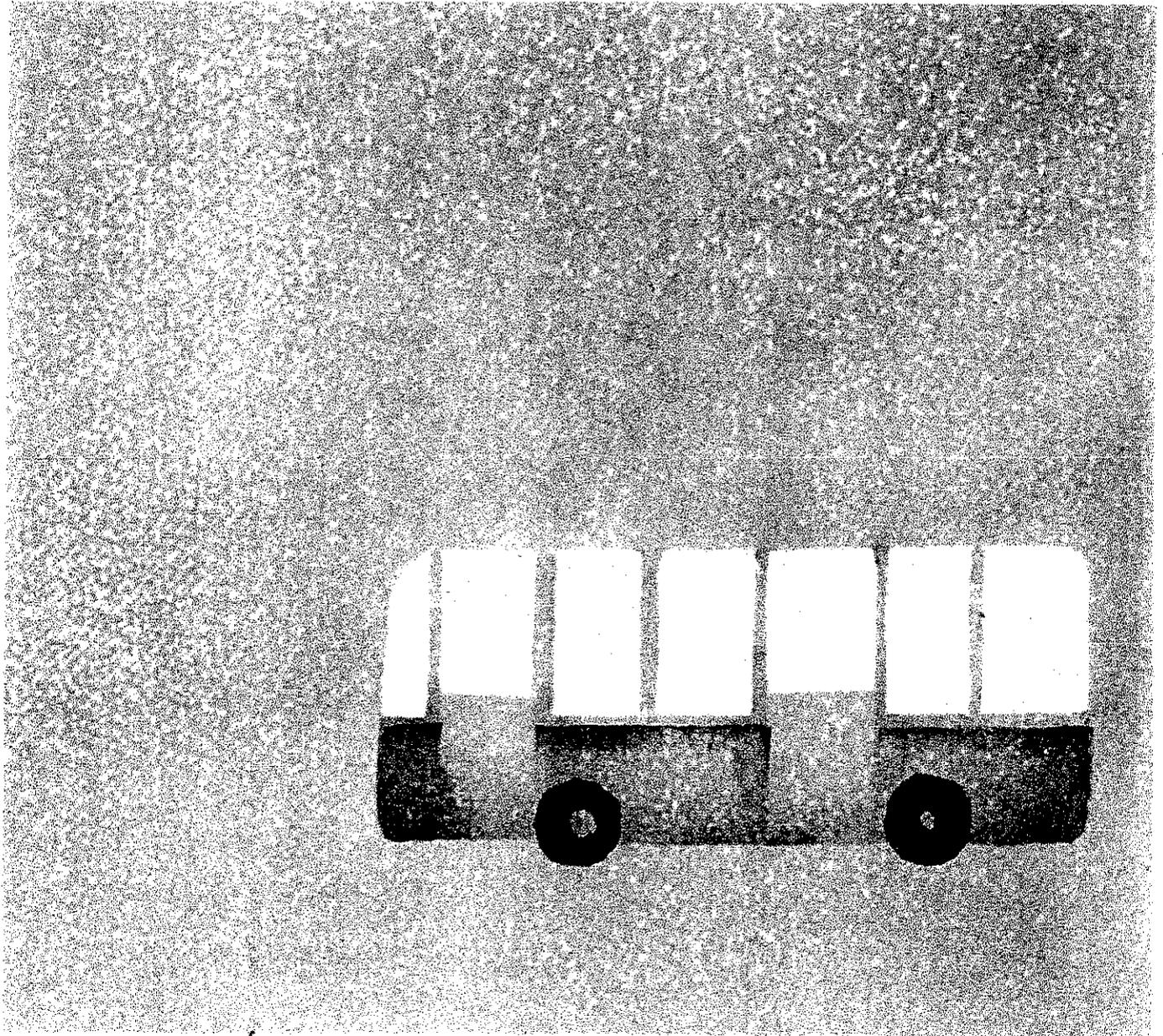


ノーマライゼーション

2015 OCTOBER
10

特集 コミュニケーション支援の最前線



- 文学やアートにおける日本の文化史 村上鬼城一代書屋の視点から
- 障害者権利条約「言葉」考 「情報の利用」
- ワールドナウ ASEAN・日本「国際協力と障害」に関する高級実務者会合の開催



障害への理解がコミュニケーション支援を進める

伊地山悠子

高次脳機能障害者になった

私は、20歳の時にスキューバダイビングに誘われ「行ったら何が見えるのだろうか？今まで見た風景がどんなに違つて見えるのだろうか？」と思い、

天にも昇る気持ちで参加しました。講習は、ものすごく暑い夏の日でした。が、それ以上に失った物もすごかったです。周りにいた人々のお蔭で生き返りました。重い後遺症が残りました。

記憶力と発動性の低下

私の場合、記憶力が低下し、言葉を発したり、自分から行動を起こすという発動性が低下しました。言葉を発するには、「想起すること」が大切だと思いますが、私はこれが難しいようです。何を話せばいいか、わからない時は困ります。私はもともと話し好きで、聞くのもしゃべるのも得意な方でした。今は時々、自分から質問もできるようにになりました。質問されたこと

には、すぐ答えられる時と非常に時間がかかる時がありますが、想起するのに時間がかかるためかもしれません。コミュニケーション支援を進めるには

コミュニケーション支援を進めるには

私が話しやすいのはどういう時か、考えてみました。以下は、以前に私が書いた文章です。

「悔しいと思つたのは、私が一生懸命考えているのに、私のことはスルーして次の人にふられるときです。自分では、考えながら行動しているのですけれど、周りの人から見ると、トロイ感じ。せかされると、カチンとくるので、ゆっくり見守ってほしいと思います」（沈黙の時間は怖くはないのです）

赤ちゃん言葉で話しかけられるのが嫌です。早口で話されると理解できないことが多くなります。ゆっくり話してください。

それから、家族や親友など、私の記

憶を共有してくれる人が傍らにいてくれると助かります。安心して話せるのがいいんです。困った時の私を理解してもらうのに、母が通所先への橋渡し役になってくれます。母が年をとった時に備えて、知的障害児・者親の会が作成している「個人用生活あんしん引き継ぎノート」を母も作り始めました。

回答の引き出し方も大事です。たとえば、「1か月にどれくらい外出しますか？」と聞かれてもどう答えていいのか、記憶すると、想起するのが難しい私は、答えられません。でも「月曜日は何をしていますか？火曜日は何をしていますか？」と具体的に聞かれると答えられます。記憶を引き出し想起しやすい質問にしてみると、答えやすくなります。（この文章は母と協力して書きました）

（いちやまゆうこ 杜のハーモニー）